

自然の恵みを土地利用計画や社会資本整備に活用するグリーンインフラに関する研究



環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻
准教授

加藤 禎久
KATO, Sadahisa



● 研究内容

現代は「人新世」と呼ばれる人間の社会・経済活動が広範囲に影響を及ぼす時代です。国際的には気候変動対策と生物多様性の保全、日本国内では人口減少と少子高齢化が主要な課題となっています。これらの課題に対応するため、私は以下のような研究に取り組んでいます。

(1) 研究内容と目的

気候変動によって増加している豪雨や台風による洪水被害、気温上昇による熱中症などの健康被害を軽減するため、森林、里山、水田、農地、河畔林、街路樹、公園などの緑地や水辺空間の機能を総合的に評価し、それを土地利用計画に活かす「グリーンインフラ」を研究しています。

グリーンインフラは、従来の土木インフラを補完し、以下のような効果をもたらします。

- カーボンニュートラルの実現
- 生物多様性の保全
- 老朽化したインフラ管理費用の削減
- 雨水の貯留・浸透促進による防災・減災
- SDGs目標を達成する魅力的な地域創生

(2) 社会貢献と活動

私は「グリーンインフラ研究会」の運営委員や、国土交通省主導の「グリーンインフラ官民連携プラットフォーム」の会員として、地域の基本構想・基本計画(緑の基本計画、総合計画等)の策定に専門家としてアドバイスを行っています。

(3) メッセージ

グリーンインフラは、持続可能な社会を実現するための鍵です。私たちの研究と取り組みを通じて、地域社会の活力を高め、未来の世代に豊かな環境を引き継ぐことを目指しています。

● 想定パートナー

関連省庁、自治体、環境コンサルタント、ディベロッパー

● 応用分野

緑の基本計画や総合計画の策定アドバイス、気候変動対策、生物多様性の保全

● 取組実績

書籍「決定版!グリーンインフラ(2017)」の共編著

鳥取県景観審議会委員(星空環境保全部会 部会長)(2022年1月~現在)